

第81回 横浜市公立大学法人評価委員会会議要録

日 時	令和元年 8 月 21 日 (水) 14 時 00 分～16 時 00 分
開催場所	市庁舎 5 階 関係機関執務室
出席委員	工藤委員長、蟻川委員、有賀委員、大久保委員、河合委員
欠席委員	なし
法 人	二見理事長、下澤事務局長ほか
事務局	高橋大学担当理事、森田大学調整課長、井上大学調整課担当係長 ほか
開催形態	公開 (傍聴者 0 名)
議 題	<p>1 第80回横浜市公立大学法人評価委員会会議要録 (案) について</p> <p>2 平成30年度公立大学法人横浜市立大学の業務の実績に関する評価結果(原案)について</p> <p>3 その他</p>
決定事項	
議 事	<p><u>主要な発言は、以下のとおり。</u>  (○：委員発言、△：法人・事務局発言)</p> <p><b>※議題 1 について&lt;資料 1 &gt;</b>  特に意見なし</p> <p><b>※議題 2 について&lt;資料 2 &gt;</b>  &lt;資料 2 &gt;</p> <p>○ I の全体評価は A、サブ項目の 1-1、1-2 が A。II は評価が分かれたが S が多いので S とする。III は A が多いので A、IV も A が多いので A、同様に IV-1、IV-2、IV-3、IV-4、IV-5 も A、V も全体として A とする。</p> <p>○ V-1 は、評価委員としては A 評価としたが、事務局が B 評価とした理由は。</p> <p>○ 評価の対象年度は平成 30 年度とのことだが、それは 3 月 31 日までに起きた事象に限定されるわけではなく、評価が完了するまでの間を対象とするものなのか。</p> <p>△ 基本的には年度で区切るものであるが、「臨床研究におけるメール誤送信による患者情報の漏えい」案件は、事象が発出したのは今年度だが、原因が過年度から続いているというところ、また、評価を 1 年先送りするよりも今回の評価で包括したほうが望ましいと考えた。</p> <p>○ 今後、外部の有識者の調査委員会を設置し、正式な結果が出た上で再発防止策をとる段取りになると思うが、今回の内容を踏まえれば、私個人としては B にとどめ置かざるを得ないと考えている。</p> <p>○ 別途設置される調査委員会において、もっと深刻な原因や必要な対策が出る可能性もあるし、そうならない可能性もある。結果として、事務局案の B となる可能性もあるし、30 年度案件の評価として A にし、その理由を追記し、来年度の評価に含める考え方もある。調査結果によっては C にせざるを得ないことも有り得る。</p> <p>○ 調査委員会による調査の過程で、現時点では知り得ないことが出てくる可能性もある。その結果としてリアクションがどうなるかも分からない。評価の対象にすることは馴染まないともいえるのではないか。</p> <p>○ 他の項目をみたらうで、V-1 は、のちほど再度議論することとする。</p> <p>○ V-2 は、S と A で評価が分かれているが、二期連続で黒字を達成したということで、S 評価もありうる。教育、研究、診療に加え、経営もしっかり取り組んでいると言ってもいいと思う。</p>

- これだけの大型の病院で2期連続黒字は大変なこと。絶対額というより、財務改善が2期連続で成し遂げられたというのは、客観的にみてS評価としても問題ないだろう。
- 私は当初Aをつけたが、その後に大学病院の経営に詳しい知人に話を伺う機会があり、これだけの規模の大学病院で利益を出すのは相当難しいことを聞いた。財務内容の改善ということであれば、プラスの評価をしてもいいと思う。
- S評価相当が3人となったので、多数ということでSでどうか。
- 大学病院の黒字化は大変なことだが、大学病院の性質を考えれば、黒字・赤字をもってS・A評価を判断するのはなじまない。極論をいえば、黒字が続くのであれば、市大ではなく民間が経営してもよいことになる。財務改善という観点でいけばSなのかもしれないが、黒字だからSというものでもないと思う。Vの評価とV-1、V-2の評価の全体のバランスをみて判断する考え方もある。
- 赤字が何年か続いた後の2期連続黒字なので、評価が上がるみたいな感覚があるが、それ以前は黒字が続いたこともあったと記憶している。そういう意味で、長い目で見ればそれほど画期的なことではないものとして捉えることもできるのでA評価で良いと思う。
- 公的病院は、診療報酬や薬剤単価、検査や差額ベッドなど様々な条件の下、色々な経営努力をされて、その結果として黒字を出したといえる。その裏にある努力も認めたいというところで、Sが多数でS評価とする。

### <資料3>

- 「IV-5 医療安全・病院経営に関する取組」は、医療安全や病院経営の核となる病院長のガバナンスが発揮できる体制、質の向上が図られており、これに基づく院内の活動は効果的展開されているということでAとした。しかし、先ほどの患者情報の漏えい事案は、医療安全の核となる病院長のガバナンスが十分に発揮できていないことによるものということになる。IV-5とV-1の評価の整合性を取る必要がある。
- 「IV-1 医療分野・医療提供等に関する取組」のセンター病院の救急棟等の内容について、留意点とされているが、これは中長期的な視点から検討を進めていないということか。
  - △中長期的な視点から検討が進められているが、評価委員会としてしっかり動向を見ていきたいという趣旨で留意点の取扱いとした。
  - そのような趣旨であれば、語尾表現の工夫や、期待を込めて評価できる点として取り扱うとしてもいいと思う。
  - △引き続き、取組を進め、良いものに精度を高めていってほしいという思いを含めているので、その辺も含めて取扱いは検討させていただく。
- 先ほど、保留とした「V-1 業務運営の改善に関する取組」の議論に戻したい。
- 先ほど、話が出たように今回の評価の対象は平成31年3月31日までだとすると、評価書の中で「こういうことが起こったのは残念である」という趣旨を書いても良いかもしれないが、今起きたばかりで、これから調査委員会の意見を聴くなどして対策をとっていくということであれば、今回の評価ではなく、次回の評価で取り扱うのが妥当だと思う。

- 今回の漏えい案件が発出する前の時点では、各委員の評価はA評価であったことを踏まえ、例えば、「アカハラや個人情報の漏えいは誠に遺憾である。」の後に、「各種の対応に努め、再発防止策を講じていることは評価できる」と追記する。また、今回の患者情報の漏えいについては「なお、本年7月にこのような事象が発生した。本事案は平成30年度に発生したものではないが、その要因となった事象が過年度から続いてきたこと等を考慮し、次年度の評価において改めて吟味することとしたい。いずれにしても、情報の性質や規模を見ても重く受け止めるべきものであり、原因究明と再発防止を徹底し、今後の取組につなげてほしい。」の趣旨を追記する形でどうか。今後、調査委員会の報告も出てくるようなので、それを見ながら来年度改めて検討するという取扱いが適切かと思う。
- こういった問題は世の中目線でしっかり捉えたほうがよい。第三者を含む調査委員会を別途設置するまでに至った重く受け止めるべき事案であることを踏まえれば、個人的にはB評価が馴染むと思う。しかし、調査委員会の調査結果をまって、次回の評価で取り扱うことにするのであれば、今回取りまとめる評価書にその取扱いをしっかりと明示しなければならない。世間一般的に、今回の件が31年度のことだから、30年度の評価書とは関係ないといえるかどうか。
- 30年度における様々な取組からA評価となったものを今回の件だけでBとするのは違和感がある。医療安全や病院運営の面では、評価できることも多かった。
- 医療安全というのは、患者の安全だけでなく、病院内における医療者含めた全体の安全のことを指す。今回の件は、患者の安全の部分に抵触する。
- 今回の件が発出してしまったので引きずられてBとするのではなく、評価書では30年度の評価という観点で議論してきたこと、4月1日以降に起きたこの案件については次年度に評価で取り扱うこと、今後、十分な対策をとっていくことについて、しっかりと書き込むことで整理したらどうか。
- A評価とするのであれば、付言をして分かりやすく明示することが必要である。
- 調査委員会の結果により、「V-1 業務運営の改善」だけでなく、他の項目に影響が出てくる可能性もある。評価書を取り纏めるスケジュールとしては調査の最終結果が出るまで待つことができないことから、これまでの議論の内容を10ページの各論と、総括的評価の5ページのところで明記することとしたい。
- V-1の評価がBが適当なのか、あるいはBで済むのか、というのは調査結果がまだ出ていない状況では判断できない。Bとする根拠の情報が十分でないことを踏まえれば、30年度は評価の対象外としたほうが良いだろう。そのことを評価書に記載したらよい。
- さきほどの案文に、調査委員会の設置と検討結果がこれから出てくるので、それをみながら更に吟味する、というのも付記する形にする。この辺りの文言調整は事務局と相談しながら調整させていただくということで、一任いただければと思う。
- 5ページの経営面の内容について「個人情報の紛失」とあるが、「個人情報の漏えい」の誤りではないか。また、先ほどの議論の内容について、この最後段の部分に追記することとしたい。
- 第三者委員会という言葉をつかっているか。
- △記者発表資料では、「第三者を含む調査委員会を設置し」としている。
- 第三者委員会というのは、非常に印象が悪く聞こえる。言葉の使い方はしっかり考えたほうがよい。

	<p>△九月には委員会を立ち上げたいと考えている。非常に重要な案件であるので、委員会のメンバーは全部外部の方をお願いしたいと考えている。法曹関係の方、医学の方、ICT系情報管理の方、市民代表の方5名ないし6名のすべて学外の方をお願いしたいと考えている。</p> <p>○では「第三者を含む調査委員会」ではなく、「第三者による調査委員会」ということになる。</p> <p>○大学病院で医療事故のようなネガティブな事象が起こった場合は第三者を入れて議論することは有益だが、あくまでもその事象に対する調査の主体は病院そのものであって、院内の調査委員会をまずやって、足りない部分については外部の人を入れて行うのが本来の筋だと思う。大学病院や市大の実情を知らない人だけでどこまで調査できるのか。</p> <p>○評価書の構成について、先ほどの件で評価に疑問を持つ人のためにコラム形式にするなどし、議論の経過・結果が一目で分かるような記載にしたらどうか。</p> <p>○「はじめに」の第4段落目で当初、「厳しい社会情勢の中でも学生や研究者に選ばれ」とあった。「学生や研究者に選ばれ」の表現が不自然に思えたので、「学生や市民、または社会人に選ばれ」に修正したらどうかと提案した。ご意見を伺いたい。</p> <p>○もっとシンプルにその部分を削除しても意味は通じる。</p> <p>△そのように修正する。</p> <p><b>※議題3について</b></p> <p>○有賀委員と大久保委員で病院の視察をしていただいたようなので、ご報告などあるか。</p> <p>○二つの病院を短時間で視察したが、どちらの病院も非常に狭い印象。狭あい化の状況下においても現場では涙ぐましい大変な苦勞をされていることが分かった。</p> <p>○センター病院も古いようなので、ロボット手術機器のような重い医療機器は上の階に入れることができないとのことのようなのだ。市民に直接裨益するような機器を早く導入したいと考えた時に、手術室の床がその荷重に耐えられず抜けてしまうという状況は早く解決したほうがよい。</p> <p>○医学部との有機的な連携の維持向上の方策もふまえながら、新しい病院のビジョンをつくっていくことは大変な作業になる。</p> <p>○単純に建物をどうするのかという側面だけでなく、教育や研究等における機能面、ソフト面の部分の知恵も必要になってくる。</p> <p>○老朽化、狭あい化は課題。そのような状況下においても現場のスタッフは本当に使命感を持ち頑張っており、様々な工夫をして何とか乗り切ろうとしている実態がよく分かった。具体的な方法論の検討はこれからになると思うが、現場目線でしっかり考えてあげないといけない。</p> <p>△病院部会のスケジュールを説明（10月中に意見書案を作成し、その後、法人評価委員でご意見をいただき、11月には意見書を取り纏めたい）</p> <p>△次回のスケジュール等、連絡事項の説明。</p>
<p>資 料 ・ 特記事項</p>	<p>[配付資料]</p> <p>資料1 第80回 横浜市公立大学法人評価委員会会議要録（案）</p> <p>資料2 公立大学法人 横浜市立大学の平成30年度の計画に対する各委員評価一覧</p> <p>資料3 平成30年度 公立大学法人横浜市立大学の業務の実績に関する評価結果(原案)</p> <p>[参 考]</p> <p>公立大学法人横浜市立大学関係資料</p>